

小野 正文（おの・まさふみ）

1、プロフィール

太宰治、今官一らと一緒に同人雑誌で活躍した。その後も、教育界に身を置きながら、文学の世界に携わった。『太宰治をどう読むか』や『北の文脈』全4巻に大きな足跡を残した。

<生没>

1913(大正2)年1月4日 ~ 2007(平成19)年9月21日

<代表作>

『太宰治をどう読むか』『入門太宰治』『北の文脈』(全4巻)『太宰治の風土』

<青森との関わり>

青森市内の小中学校に入り、大学卒業とともに長く教育界に席を置きながら、研究・評論に意を注いだ。

2、作家解説

大正2年1月4日、父の職業の関係で岩手県久慈市に生まれた。父は北津軽郡三好村(現五所川原市)出身である。青森市で小学校を終え、青森中学校に入学した。同学年には太宰治の弟礼治がおり、太宰治も3年に籍を置いていた。

その後、官立弘前高校から東京帝国大学法学部に入学した。太宰治とは学校の後輩として、付き合いが始まる。昭和9年に太宰治や今官一らと同人誌「青い花」を創刊したが、1号で廃刊となったものの、太宰治との交際は長く続いた。

13年3月に大学を卒業し、同年9月から県立青森高等女学校兼青森県女子師範学校の教諭となった。県師範学校から、戦後は教育庁に勤め、さらに県立図書館長、県立弘前南高校校長、弘前中央高校校長を勤めた。のち、弘前大学医療短期大学、青森中央短期大学で教鞭をとった。

この間、21年「青草」には評論「文学の所在と在所の文学」小説「ローラに題す」などを書き、「東奥日報」の文芸時評などでも活躍した。「北の街」には37年7月

の創刊号から「文学のある風景」を連載、続いて 202 回に及ぶ「北の文脈」を連載していく。

また、太宰治との関わりから『太宰治をどう読むか』(昭和 37 年)や『入門太宰治』(昭和 41 年)を刊行した。太宰治論の集大成として『太宰治その風土』(昭和 61 年)がある。

昭和 48 年『北の文脈』を刊行し、平成3年全4巻が完結した。青森県の文学者を広く取り上げたこの書は高く評価されている。『津軽の文学と風土』(昭和 50 年)など著書が多い。

3、資料紹介

○『入門 太宰治』

図書

1966(昭和 41)年 10 月 25 日

190mm×135mm

「若い読者の皆さんが、自分なりの太宰治像を胸にきざむためのお手伝いがい
くらかでもできれば」ということで書きあげたもの。「一 太宰治の人間と生涯」「二
太宰治の文学と作品」の2章よりなり、太宰治の略年譜を付す。